

自殺企図前の感情の分析

—ブログにおける絶望感に注目して—

東出 采子

自殺の対人関係理論では、所属感の減弱(孤独, 互いに思いやりのある関係がない)と負担感の知覚(家族や友人, 社会にとって自身が負担である, 自己嫌悪)に関する絶望感が、積極的希死念慮の要因であるという仮説が提示された。また、絶望感理論では、絶望感が自殺のリスク要因であることが示された。しかし、所属感の減弱と負担感の知覚に関する絶望感について研究は充分に行われていない。そこで、本研究は絶望感に着目し、研究を行った。また、絶望感と関連する感情表出についても、充分に研究が行われていない。そのため、絶望感と関連する感情表出について検討した。加えて、自殺研究において、SNS の文章データを分析対象とした研究が盛んに行われている。これらの研究の利点として、あらかじめ記述されたものを扱うため、記述行為に対して研究上の負担が作者に存在しない点、記述は本人の意志のみで書かれ、研究者の恣意が関与しない点が挙げられる。そこで、本研究は希死念慮や自殺行動に関する投稿が多く見られるウェブログ(ブログ)を分析対象として、研究を行った。

本研究の目的は、自殺企図者のブログにおいて、絶望感が表出されるか、絶望感と関連がある感情表出は何かについて検討することであった。自殺企図者の、自殺企図日までの2週間分の投稿記述を取得し、絶望感尺度と Interpersonal Hopelessness Scale (IHS) を基準として絶望感の表出と判断できる記述の抽出し、類似点と相違点からカテゴリーを生成した。また、投稿記述における感情表出を、感情表現辞典を用いて感情分類型に分類した。そして、絶望感の表出と判断できる記述における、各感情分類型の表出数の分析を行った。

結果として、絶望感の表出と判断できる記述が 135 記述抽出され、【将来の否定的見通し】、【無力】、【将来の不確実性】、【所属感の減弱】、【負担感の知覚】の5カテゴリーを生成した。自殺企図1日前と企図当日において【所属感の減弱】の記述数の増加が見られた。また、全感情分類型の表出数は216であり、7つの感情分類型に分類された。「厭」、「哀」、「無」が多く表出された。自殺企図1日前と企図当日において「厭」と「哀」の表出数の増加が見られた。

以上のことより、ブログにおいて、絶望感が表出されることが示された。また、所属感の減弱に関する絶望感が表出されている記述について、その記述数の増加に着目することで、自殺リスクの高い者を発見できる可能性が示唆された。加えて、ブログにおいて、絶望感と「厭」、「哀」、「無」に関連があることが示唆された。また、絶望感が表出されている記述における「厭」、「哀」の表出数の増加に着目することで、自殺リスクを推定できる可能性が示唆された。(臨床死生学・老年行動学)